

ひまわり



令和3年12月6日(月)

祈りの効用



村上和雄さん【むらかみ かずお(1936-2021)・分子生物学者・筑波大学名誉教授】と棚次正和さん【たなつぐ まさかず(1949-)・宗教学者・京都府立医科大学教授】の共著に『人は何のために「祈る」のか 一生命の遺伝子はその声を聴いている』があります。

「はじめに」を村上さんが書いているのですが、「祈り」について、いくつかの興味深いことが示されています。

(アメリカでの医療研究に関わり)「…私が注目しているのは、新しい分野で、祈りの治療効果が明らかになり出したことです。ハーバード大学、コロンビア大学などの権威ある大学が、競ってこの研究に乗り出しています。…そして、「精神神経免疫学」という新しい分野も開かれました。人類が古来続けてきた「祈り」が最先端の研究分野になりつつあるのです。」

そして、「祈り」と「医療」について、次のような実験が示されていました。「心臓病患者393人による実験で、他人から祈られた患者は、そうでない患者やよりも人工呼吸器、抗生物質、透析の使用率が少ないということが分かりました。しかも、西海岸にあるこの病院に近いグループからの祈りも、遠く離れた東海岸側からの祈りも、同様の効果がありました。そして、これらの患者は祈られていることすら知らなかったのです。」

にわかに信じられない内容ですが、実験結果として存在していることは間違いません。ただ、「祈り」と「病気の治療成績」の因果関係は証明できません。あくまでも統計的なデータとなります。

人はややもすれば、自分の利益だけを考えて祈ることがあります。例えば、「宝くじが当たりますように」、「入試に合格しますように」などです。

しかし、人のために祈ることができれば、それはとても尊いことではないでしょうか。誰かが病める時は、早く良くなるように祈りを捧げる。入試では、自分も友達も合格するように祈りを捧げる。新型コロナについては、コロナ禍が過ぎ去るように祈りを捧げる。人として、このような生き方をしたいものですね。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。
【東住吉中学校】で検索



QR code

東住吉中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j742691>